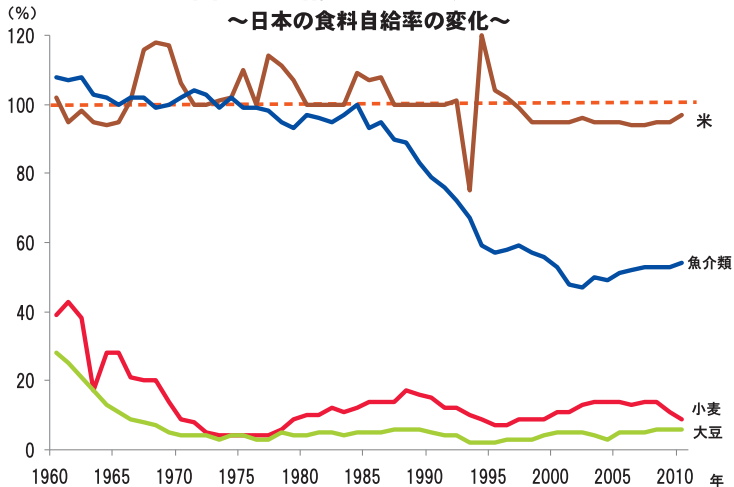


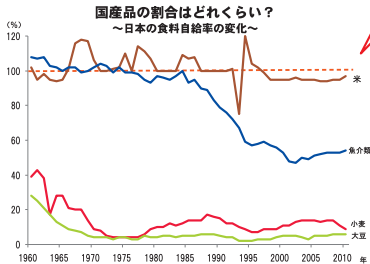
国産品の割合はどれくらい？

～日本の食料自給率の変化～



【ねらい】

日本における食料自給率の急激な減少の結果として、大量の輸入食材の長距離輸送により、大量の化石燃料が使用されていること、ひいては二酸化炭素の排出や地球の気温上昇に繋がっていることを示すことにより、地産地消や地球環境負荷の低減のための取り組みへの理解を深めます。



【資料解説】

このグラフは、日本における主な食料の品目別の自給率の推移を表しています。

1960年当時には、戦後米国からの援助物資等として輸入が定着した小麦、大豆を除くと、ほとんどの品目で100%前後の自給率を保っていました。その後、各品目は全体的に自給率を低下させていますが、品目別に見ていくと、低下幅にも大きな差があります。

米の自給率は、凶作時の緊急輸入が行われた1993年に75%に急落しましたが、この年を除いて100%あるいはそれ以上を維持していました。しかし、WTOの前身であるガットのウルグアイラウンド合意によってミニマムアクセス(MA、最低限の輸入枠)を認めるようになったので1997年から100%を下回るようになっていました。ただし、MA米は、加工用や海外援助などへの活用が主であり、**主食用の米だけをとると自給率100%を保っています。**

魚介類については、50%水準にまで低下しています。

小麦、大豆については、どちらも10%を切っており、ほとんどを輸入に頼っています。米に比べて単位面積あたりの収量が低いことや、豊凶変動があり収益が安定しないことなどが要因となっています。

参考：農林水産省「食料需給表」

【関連する各教科の学習内容】

| | 中3 | 中4 | 中5 | 中6 | 中1 | 中2 | 中3 |
|-----------|-------------|-------------|------------|---------|--------------------------------------|----|--|
| 社会 | 地域の人口の増減や変化 | 地域の人口の生活や産業 | 我が国の産業や水産業 | 世界の国の日本 | 【地理】 ○世界と比べた日本の地域の特色(資源、エネルギーと産業) | | |
| 理科 | | | | | | | 【生物】 ○よりよい社会を目指して |
| 技術・家庭(理科) | | | | | | | ○自然環境の保全と科学技術の活用 |
| 英語 | | | | | | | ○食料の生産環境と生産条件 ○食料の生産に関する国際的動向(食糧・漁業) |
| 家庭 | | | | | | | ○世界の食料と環境の課題 ○世界の食料と地域の食文化 ○家庭食生活と環境 |
| 技術・家庭(家庭) | | | | | | | ○日本の食料と環境の課題 ○環境に配慮した食生活の工夫 |